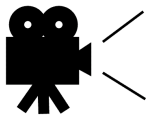


目の不自由な方々と共に映画鑑賞を楽しむことのできる環境づくりをしています。



ごあいさつ

シティ・ライツ代表 平塚千穂子

あの猛暑の日々も終わりを告げて、やっと清々しい秋になりましたね。少し無理がたたって、夏バテ気味のリーダーですが、皆様はいかがお過ごしですか？

それにしても、この夏をふり返ると、この猛暑にも負けずに、シティ・ライツは随分と精力的に活動をしてきましたね。8月も9月も、毎週必ずどこかで同行鑑賞会が開催されているといった状態で、夏休みの話題映画もしっかり逃さず楽しめたのではないかと思います。改めて、映画を愛する皆さんのパワーには、頭が下がります。お盆に開催された下高井戸シネマでの初の同行鑑賞会では、渋谷チームが「シャーロック・ホームズ」にチャレンジしましたが、下高井戸シネマのような名画座は、新旧含めてよい映画がたくさん上映されますし、先々まで上映スケジュールが出ているので、鑑賞会の計画が立てやすい、という意味でもよかったですと思います。こういう名画座も少なくなってきたので、横浜のシネマジック&ベティ同様、劇場の存続を応援する意味でも、是非、継続していただきたいと思います。他の地域での名画座開拓も、いいかもしれませんね。

また、この夏は、鎌倉観光からプロレス観戦まで(笑)。変わった企画も盛りだくさんでした。実は、観光企画は、かねてからの念願だったのです。いつか映画鑑賞会や上映会だけでなく、みんなと旅を楽しむのもいいなあ〜と思っていました。冗談半分で、DVDを持参してどこかの宿泊所に泊まり込んで、オールナイトの映画付け夏合宿！なんていうのもいいねーなんて。ちょっとそこまでは、無謀な計画だと思いますが(笑)、鎌倉は個人的にも大好きで、よく遊びに行っていた所なので、観光にいい場所やおいしい食べ物も、いっぱい紹介していきたいと思っています。また季節のよい時に、川喜多映画記念館の音声ガイド付き映画とセットで、鎌倉観光第2弾を企画したいと思っています。今回行けなかった方も、是非一緒にしましょうね。

それから、史上初の音声ガイド付きプロレス観戦！ これまた、スゴイ企画でしたね。プロレスファンの檀さん、大輔さんの息のあったライブ解説を聞きながらの愉快的プロレス観戦。猪木のテーマに乗せて赤いタオルをふりながらの猪木コール。ポーズを覚えてみんなで臨んだ1、2、3ダー——。これをみんなと一緒にできたのが、何より一番嬉しかったです(笑)。また、試合後は恐れ多くも、レセプションパーティーにまで潜り込ませていただいて、みんなを代表して、猪木さんに花束贈呈と、握手までさせていただけました。なんだか、まだ夢のようです。そして、この縁は、しっかり映画のバリアフリーにもつながりました。11月17日には猪木さん初主演の映画『ACACIA—アカシア』のDVDが音声ガイド付きで発売されるそうです。これで、猪木さんには、映画からプロレスに至るまで、視覚障がい者もみんなと一緒にエンタメ文化を楽しみたいんだ。という要望が、しっかりと伝わりましたね。

さて、来年は、団体設立10周年。シティ・ライツ映画祭の方も、いよいよ作品選定に踏み出しました。近々、実行委員長のノンちゃんより、邦画の作品候補が発表されると思いますが、邦画は皆様の投票によって上映作品が決まります。是非ご協力下さい。それから来月は、会場予約の抽選会です。ここでは運がためされます。よい日程がおさえられるとよいのですが・・・是非、幸運を祈ってください。来年の映画祭では、10年史のイベントも考えています。活動をはじめた頃に比べたら、今、音声ガイド付きのDVDが月1本でも発売されるようになったことや、毎週のように同行鑑賞会が行われていることすら、夢のような出来事です。改めて、これまでの試行錯誤の活動につき合ってきてくれたメンバーの皆さん、そして活動を支援してくれた多くの皆様に、感謝せずにはられません。これからも何がおこるかかわからない可能性を秘めたシティ・ライツの応援、よろしく願いいたします！



## 活動報告

## ～同行鑑賞作品～

このコーナーでは、近日(7～9月まで)に開催された音声ガイド付き上映会や、同行鑑賞会をレポートします。参加された皆さん、企画者そしてボランティアの方々お疲れ様でした。

- ・パリ20区、僕たちのクラス 7月26日 (岩波ホール)
- ・幸福の黄色いハンカチ 7月29日 SKIPシティ多目的ホール
- ・踊る大捜査線 THE MOVIE3 8月8日 (川崎チネチッタ)
- ・シャーロックホームズの冒険 8月15日 (下高井戸シネマ)
- ・ぼくのエリ 8月21日 (銀座テアトルシネマ)
- ・借りぐらしのアリエッティ 8月22日 (川崎チネチッタ)
- ・きな子 見習い警察犬の物語 9月4日 (丸の内ピカデリー)
- ・鎌倉観光&映画『父と暮らせば』の同行鑑賞会 9月5日
- ・カラフル 9月12日 ユナイテッドシネマとしまえん
- ・落語娘 9月19日 上野東急2
- ・BECK 9月20日 (川崎チネチッタ)
- ・ペンダビリリ 9月25日 (シアターイメージフォーラム)
- ・史上初! 音声ガイド付き プロレス大会 9月25日 (JCBホール)
- ・ブタがいた教室 9月26日 (北区中央図書館)
- ・アイコンタクト 9月26日 (ホレボレ東中野)
- ・セラフィーヌの庭 9月27日 (岩波ホール)



## 第4回シティ・ライツ映画祭

### 新人実行委員からのご挨拶

第4回シティ・ライツ映画祭の準備が動き始めています。詳細はおいおい掲載しくつもりでおりますが、今回は映画祭ファースト特集ということで、実行委員の皆さんからのメッセージを掲載いたします。

＜シティ・ライツ会員 貝原 景子＞

私は元々映画が好きで、普段の生活では体験できないような、衝撃、感動、景観美を体感できるのが魅力だと思っています。その魅力を、視覚障がい者、晴眼者問わず、鑑賞者全員が楽しめる映画祭のコンセプトに共感し、実行委員に応募しました。熱意溢れる平塚リーダーのもと、映画祭実行委員の一員になって光栄に思っています。

シティ・ライツの活動に参加したばかりで、皆さんにお世話になりっぱなしですが、実行委員・参加者が一体となった映画祭にできればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<長岡 敦子>

「おとうと」勉強会に初めて参加した時のこと。初めて、目をつぶって映画、「西の魔女が死んだ」を観ました。ザーザーと降りしきる雨の中、おそらく女の子であろう登場人物のセリフが聞こえてはくるが、状況が掴めない。分からない。けれど、ストーリーだけは、どんどん展開していく。この時に、音声ガイドの必要性を体感しました。

音声ガイドづくりは、正解のない問題に、よりよい答えをみんなで導き出す作業で、本当に至難の業でした。けれど、学生時代のゼミのようで、毎日が楽しかったです。

色々な人の思い入れの詰まった、シティ・ライツが誇る、とっておきの音声ガイドが付いた映画を、たくさんの方々に楽しんでもらうという、夢のような映画祭のお手伝いを、共にさせて頂きたいと思い、実行委員に立候補させて頂きました。初めての実行委員なので、分からないことだらけですが、先輩方にご指導頂きながら、皆さまと共に、映画祭を盛り上げていきたいと思っております。

とにかく、今は、映画祭の事をワクワクしながら、考えています！

最後になりますが、私は、書店に勤務しており、毎日、本が入った重い段ボールを運んでいるので、体力には自信があります！皆さま、何なりとご要望をお申し付け下さい。どうぞ、よろしく申し上げます。

<シティ・ライツ会員 長田 香>

私が初めてシティ・ライツ映画祭のお手伝いをしたのは、1年前、『ザ・マジックアワー』の音声ガイドづくりが最初でした。映画祭当日は皆おそろいのシティ・ライツTシャツを着て大声を出したり、走り回ったり、とっても忙しかったけれど、とても充実した楽しい1日でした。そして、今年の映画祭では山田洋次監督を迎えてのトークショーがあり、映画祭当日のみボランティアで参加した私にとって、実行委員の方々はとても素敵に輝いてみえました。来年度の映画祭に向けての実行委員募集があった折り、「やるぞ！」と思ったのは言うまでもありません。そして来年はシティ・ライツ10周年、とても大切な年でもあります。皆が楽しめる心のこもった映画祭になるようにがんばりますので、来年の映画祭、楽しみにしててくださいね。どうぞよろしく申し上げます。



## ◎レポート ～したまちコメディ映画祭～

<シティ・ライツ会員／したまちコメディ映画祭サポーター 武藤 歌織>

今年も「したまちコメディ映画祭」のバリアフリー企画で音声ガイド付き映画が上映され、シティ・ライツがガイドづくりを担当します(書いているのは映画祭前なので、過去形ではないです)。

今年の映画は「落語娘」。今年で3年目の映画祭です。台東区それも上野とコメディ発祥の地・浅草で行われる映画イベントということもあり、谷中(台東区)に住む私は「何とか音声ガイド付きにならないものか…」と1年目からサポーター(無償ボランティア)として関わっています。

昨年はサポーター企画で音声ガイド付き上映が実現し、「しゃべれどもしゃべれども」という落語が出てくる映画を楽しみました。シティ・ライツ副代表の美月めぐみさんが「映画に音声ガイドがつき、劇場でみんなと一緒に笑えることがうれしい」などと舞台挨拶をしてくださったことを覚えておられる方もいらっしゃると思います。

多くの方が参加して下さったこともあり、事務局から「今年も」とお声をかけていただきました。

私の願い「機材レンタル費くらいはシティ・ライツに対して出してほしいなあ…」は、かなわなかったものの、昨年同様、

シティ・ライツ経由で参加すると多少入場料が安くなる特典は継続されます(これは昨年リーダーが事務局に交渉してくれたのでした)。

収穫は？といえば、今年は、したコメ用に音声ガイド勉強会が開かれたこと。また、製作者チェックもしてもらえることになり、配給との繋がりもできれば、新たな展開も期待できそうで、うれしいです。

それでいえば、今年の会場は、上野東急。これもお初。上野駅というやたらと出口があり、見える見えないに関わらず待ち合わせには超難易度の高い駅に、どのように集合して、劇場に向かうのか？シティ・ライツの経験が試されることです。また上野東急は、したコメの事務局を務める(株)東急レクリエーションの映画館なので、「これを機会に上野でも同行観賞会が実現するかも？」なんて期待も高まります。

—さてお立会いのみなさま。このイベントの行方は、みなさまが台東区に「したコメで、音声ガイド付きをもっと観たい！」と声をあげてくださることできるのをございますですよ！ どうか御最良のほど、よろしく願いいたしますー

さて、音声ガイド勉強会。落語の映画なので、前座、二つ目、真打ちをはじめ、様々な落語業界用語も学びつつ、進められています。モニターに、テッチャン、酒巻さん、めーたんを迎え、参加者たち一同。ビミョーでコミカルな表情を、ちよつとしたセリフの間に入れることに苦しみました。

セリフでわかるうれしさ、悔しさ、怒りは、役者の動作・しぐさの説明よりも「声音《こわね》」で楽しみたいと、音声ガイドはカットに。音声ガイド製作は見える人と見えない人がいないと、よいものはできない…と実感する勉強会になっています。

「落語娘」を音声ガイド付きでご覧くださったみなさま、ご意見・ご感想をお待ちします！

## 『落語娘』

監督:中原俊 出演:ミムラ、津川雅彦

念願の落語の世界に飛び込んだ香須美(ミムラ)は、女というハンデに加え師匠は落語界の問題児であったが、逆風にもまれながら女前座として日々奮闘していた。ある日師匠の平佐(津川雅彦)が突然、呪われた噺(はなし)「緋扇長屋」に挑むと宣言。周囲が騒然とする中、心配する香須美は信念を曲げようとしない師匠の心に共感していく。



# 特集

映画祭をめぐる～東京国際映画祭を知ろう～

第5回目です。今回は国内の世界映画祭、東京国際映画祭を取り上げたいと思います

<概要>(ウィキペディアより)

財団法人日本映像国際振興協会(ユニジャパン)が主催する国際映画製作者連盟(FIAPF)公認のコンペティティブ長編映画祭である。

1985年のスタート時は隔年開催で渋谷の映画館を中心に開かれていたが、1991年からは毎年開催されている。1994年は平安遷都1200周年記念として「第7回東京国際映画祭・京都大会」という名称のもと京都市で開催された。

6名の国際審査委員が最優秀作品賞である“東京サクラグランプリ”を選出する「コンペティション」やエンターテインメント性の高い話題作を集めた「特別招待作品」、アジアの秀作に焦点を当てた「アジアの風」、日本映画をクローズアップする「日本映画・ある視点」などのメイン企画をはじめ30以上の企画が開催される。

また2007年、経済産業省の音頭で立ち上げられた「JAPAN国際コンテンツフェスティバル」(コ・フェスタ)の中核としても期待されている。20回目の開催となったこの年の東京国際映画祭は、第1回コ・フェスタのクロージングを飾った。

2008年には日本コカ・コーラと帝人(TEIJIN)がペットボトルのリサイクル素材を活用したオープニングイベント用グリーンカーペットを提供、2009年には前年に引き続き帝人(TEIJIN)がグリーンカーペットを提供し、日本コカ・コーラは環境配慮型電飾ツリーとコーヒーの豆かすを利用したエコベンチを提供し地球環境を考える映画祭を目指している。

過去のグランプリ受賞作品(多いので2005年以降の作品にしました)

第18回 2005年『雪に願うこと』日本

第19回 2006年『OSS 117 カイロ、スパイの巣窟』フランス

第20回 2007年『迷子の警察音楽隊』イスラエル

第21回 2008年『トルパン』ドイツ/スイス/カザフスタン/ロシア/ポーランド合作

第22回 2009年『イースタン・プレイ』ブルガリア

<補足> 個人的にあんまり面白みのない内容になってしまったので、今回はおまけでもうひとつ取り上げます

## 「東京国際レズビアン&ゲイ映画祭」

東京国際レズビアン&ゲイ映画祭は、東京で開催されるセクシュアル・マイノリティのための国際映画祭。毎年7月に青山のスパイラルホールで開かれる。

1992年に中野で開かれた小規模な映画祭が始まりである。その後、吉祥寺を経て、現在では青山で開かれている。映画祭に付随して様々なイベントも開かれる。2004年、2005年の映画祭では、文化庁からの後援を受けた。

現在では、セクシュアル・マイノリティをテーマとした映画祭は世界各地で150以上に上るが、本映画祭はその中でももっとも歴史が古く、大規模なものの一つである。また、期間中はHIV、セーフ・セックスなどをテーマにしたディスカッションも行われる。

2008年の第17回からは、例年のスパイラルホールに加え、新宿バルト9でも開催されている。

2010年の上映作品はこちら・・・

### ①大変！息子がゲイなんて！(アメリカ)

パワフル母さんシャーリーの目標は、年頃の息子に「完璧なお嫁さん」を探す事。ある日、息子を訪ねてみると、そこには同棲中の恋人アンジェロの姿が。そう、息子はゲイなのだ！しかし彼女のちょっとした勘違いが、その後の家族に大騒動を巻き起こして…。

### ②シングルマン(アメリカ)

1960年代のロスサンゼルス。長年のパートナーを失い、生きる価値を見出そうとする苦悩する大学教授ジョージ。失われた愛への悲痛な想いとその記憶を、隙のない美しい映像と演出で描いた愛と喪失の物語。

### ③とある放課後に(日本)

香織と、瑛太は、高校の同級生。数年後、女子大生と、交番勤務の警官として偶然再会した二人。高校時代、とあることがきっかけで、淡い恋心を瑛太に抱いていた香織は、再会により、瑛太への感情を再燃させる。ラブレターで気持ちを伝えようとするのだが、なかなか素直になれず、軽い気持ちで「友達から」と渡してしまう。それが思いもよらぬ展開を生んでしまうとは知らずに…。

## 勝手におすすめシネマ Vol.14 『フラガール』

先日、女優の深津絵里さんがモントリオール映画祭で最優秀女優賞を受賞されましたよね。  
その映画『悪人』の監督である李相日(リ・サンイル)氏の前作『フラガール』を紹介いたします。



『フラガール』(2006年)

監督: 李相日

出演: 松雪泰子、豊川悦司、蒼井優、他

第30回日本アカデミー賞最優秀作品賞受賞

昭和40年、福島県いわき市。一時は炭鉱で賑わっていた町も、いまや危機的状况に陥り、次々と失業者が出るありさま。

そんな中、町の元気を取り戻そうと、ハワイアンセンターの設立計画が持ち上がる。

反対する住民をよそに、元松竹歌劇団のダンサーである平山まどか(松雪泰子)を東京から呼び寄せ、ハワイアンセンターの目玉となるフラダンスショーのダンサー育成をはじめようとする。

友人に誘われてダンサーの説明会に行く紀美子(蒼井優)。はじめは興味も何もなかったのだが、ある日、ひとり真剣に踊るまどかの姿を見てから、強い憧れを感じはじめるのだった。

この映画に登場するフラガールたちは、撮影に入るまで実際にフラダンスの猛特訓を行ったそうです。

みんな同じ目的に向かって心をひとつにして踊る。ここで言う“同じ目的”とはひとつの映画をつくりあげるといことで、みんなそれに向かって、役づくりのために猛特訓をしたわけですが、最終的には、それが一風変わった効果をもたらしていたようです。

映画のラスト、フラダンスショーのシーンで踊るフラガールたちには生き生きとした本物の情熱が溢れていました。映画のため、役づくりのためという目的で行っていた猛特訓が、それを体験しているうちに、自分の力を出し切って踊る、ただフラダンスを踊ることへの情熱に変わっていたのです。

『フラガール』という物語に、フラダンスの猛特訓という実際の大仕事がシンクロしたからこそ生まれた二重の感動があるのです。

もしかしたら、あのフラダンスショーのシーンは、ドキュメンタリーと言っても過言ではないかもしれません。

実話をもとにつくられた映画ですからね、そういう手法もありなのかもしれませんね！

(大田悠子)



### 思い出の映画

— 思い出は、名画とともにいつまでも —。

このコーナーでは“思い出の映画”にまつわる投稿エッセイをご紹介していきたいと思  
います。皆さんの汗と涙の人生をセピア色に彩る素敵な名画の数々をエピソードとともに  
お寄せ下さい！！



私ははじめてシティ・ライツで音声ガイドをした作品は『ゲゲゲの鬼太郎』ですが、はじめて映画館で音声ガイドをしたのは実は『世界の中心で愛を叫ぶ』でした。

当時、社会現象ともなっていた「セカチュー」。付き合い始めたばかりの今の嫁さん(全盲)と2人で観にいきました。シティ・ライツに入る前のことでしたし、機材とかもあるわけではなかったので、隣に座ってのこそこそガイドとなりました。

とはいえ、初見なので登場人物が、誰が誰やらさっぱり分からないし、暗闇で恋人の隣に座って顔を近づけてこそこそ話すというシチュエーションにどきどきしちゃってるし、途中から自分の涙でスクリーンは見えないし、ほとんどまともにガイドできませんでした。

社会現象になってるだけあって、館内はほぼ満席で、周りの人に遠慮しながらのガイドになったのも残念でした。今の自分ならもうちょっとまともにガイドできると思うのですが・・・でも、映写室からのガイドだと、隣に座って観れないし、こっそり手をにぎるとかもできないしなあ・・・。

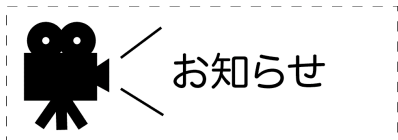
あんなにぼろぼろ泣いてたのに映画の中身はほとんど覚えておらず。大人になった朔太郎が婚約者と一緒にオーストラリアに行くシーンでは、「昔の恋人と行きたかったところがある」と言われて砂漠の真ん中に連れて行かれても「ふーん」以外のリアクションを返せる気がしないなあと思ったり。無菌室に入った亜紀と朔太郎が透明なプラスチックの壁越しにキスをする場面では、「もし、こうなったら全盲の恋人と壁越しで、手も触れられないのはつらいなあ」と思ったのを覚えています。もともと、付き合い始めて5年以上経つ今なら「まあ、こんな状況下になってうちの嫁さんはでかい声で話しまくって、他の病人から迷惑がられそうだな」と思いますが・・・。いつか私が死の床に臥すその日まで、2人でいっぱい映画を観にいきたいですね。

『世界の中心で愛を叫ぶ』(2004年5月公開 日本映画)

監督 行定勲 原作 片山恭一

キャスト(役名) 柴咲コウ(藤村 律子) 大沢たかお(松本朔太郎) 森山未來(松本朔太郎:高校生時代)長澤まさみ(廣瀬亜紀)

＜ストーリー＞ 朔太郎の婚約者律子書き置きを残し疾走。朔太郎は彼女の行き先が2人の故郷である四国であると知る。そこは、死んだ朔太郎の初恋の人亜紀との思い出の地でもあった。故郷を訪れる朔太郎の心に亜紀との思い出が次々とよみがえってくる。同じ高校に通う朔太郎と亜紀はふとしたきっかけで付き合い始める。しかし2人の幸せな日常は、亜紀の病気の進行によって蝕まれていく・・・。



### ■ 新規会員のご紹介

(2010年6月30日～9月30日までにご入会いただいた方々です。)

[正会員] 坂本 美恵子(東京都大田区在住) 貝原 景子(東京都新宿区在住)

川村 尚久(東京都稲城市在住) 島崎 洋子(東京都台東区在住)

小泉 牧子(東京都江戸川区在住)

[賛助会員] 宮内 優子(東京都豊島区在住) 岡井和弘(東京都足立区在住)

### ■ 音声ガイド付き上映会のご案内

日時:11月22日(月曜日) 上映開始:18時50分～(映画は92分です。)

集合:18時 岩波神保町ビル1階エレベーターホール(神保町駅A6出口直結)

鑑賞料:1400円。(晴眼者も一律)

ガイド方式: 音声ガイドと字幕朗読は収録形式で行います。ラジオは、FM周波数88.5MHzに合わせてください。

上映作品:『冬の小鳥』(2009年／韓国・フランス合作映画)

大好きな父に捨てられて孤児となった9歳のジニ。絶望にたった1人で向き合い、やがて新しい人生を歩みだす。少女の孤独な魂の旅。1970年代の韓国を舞台に、俊英ウニー・ルコント監督がつづる珠玉の名作。

【申込締切】11月17日 24時 ※お申し込みは、メール:doukou@citylights01.org または、事務局(03-3917-1995)まで。



## 編集後記

編集スタッフ・イラスト描きやレイアウトデザインの  
スタッフ也大募集！希望の方は会報編集課まで！

### (会報編集課 ノンちゃん)

9月の半ばを過ぎててもまだまだ暑い日が続き、もしや日本はこのまま熱帯になってしまうのではないかと思ったほどでした。

そんな暑い夏の最中、第4回シティ・ライツ映画祭の準備を開始しました。今号では、その実行委員の中でもフレッシュな方々にコメントを寄せていただきました。

暑かった夏にも負けないくらいの熱い思いで、今回も素敵な映画祭づくりをして行きたいと思っています。シティ・ライツ映画祭はシティ・ライツのみんなのものです。皆様のご協力もどうぞ宜しくお願いします。

### (会報編集課 大田)

今年の夏はものすごい猛暑でしたね！皆さん体調を崩されたりしませんでしたか？

私はけっこうやられてました……。体調を崩してしまって、今もまだすっきりしないような状況です。

そうそう、厄除けに行ったという同い年の友人と話していて、「あ、私今年は厄年なんだったわ！！」って思い出したんですね。すっかり忘れていましたけど、そういえば今年のはじめの編集後記にもそんなこと書いたよなーなんて、そんなことも思い出しました。

はあ、厄年か……。なんて多少落ち込みましたけど、厄除けしてなかったからねー、仕方ないよねーなんて、諦めもつくってもんです。そんなわけで、ポジティブシンキングで頑張りまーす！

### (会報編集課 吉川)

みなさんこんにちは。いつまでも続くと思われた暑さがあつという間に過ぎ去りました。これを書いているのが9月19日。暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったものです。

夏が暑いとスギ花粉が多いらしく、花粉症もちには厳しい春になると言われています。自分ひどいので、春の到来がとってもおそろしい。でも今はそんなことは考えずに、すごしやすくなったこの季節を楽しもうと思います。

先日、素晴らしい映画を見てきました。「瞳の中の秘密」という作品で、昨年のアカデミー外国語映画賞をとったアルゼンチン映画。簡単な概要を書きますと・・・連邦刑事裁判所を定年退職したベンハミンは、25年前に起きたある暴行事件について小説を執筆しようとしている。それは新婚の女性が暴行殺害された事件で、同僚のパブロや上司のイレーネとともに、苦労の末に真犯人を逮捕した、という忘れられない記憶だった。事件は解決したかに見えたのに、その後不可解な経緯をたどっており、真相を暴いていくと同時にもう一つの真実が明らかになっていく…。サスペンスを軸にした、大人の恋愛映画です。冗談抜きで、今年のベスト1かな。いずれ、音声ガイド付き鑑賞会を企画できたらなと思っています。それでは……。

お忙しい中、今回の会報作成に協力いただいた方々には、大変感謝しております。ありがとうございました。

皆さまの投稿を、心よりお待ちしております。宛先は、[kaihou@citylights01.org](mailto:kaihou@citylights01.org)。次回の発行は1月10日。投稿される方は、12月第2土曜日までをお願いします。『会報のデータ送信』を希望の方には、テキストメール送信にも対応します。ご希望の方がいらっしゃれば、会報編集担当アドレス<[kaihou@citylights01.org](mailto:kaihou@citylights01.org)>まで、氏名と会報の送信を希望するメールアドレスを記入して、お申し込みください。

2010年秋10月10日発行 編集：吉川俊平、斉藤恵子、大田悠子  
発行者：バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ  
事務局：〒114-0016 東京都北区上中里1-35-15 TEL&FAX 03-3917-1995  
E-mail [mail@citylights01.org](mailto:mail@citylights01.org) URL <http://www.citylights01.org>

